

白方地区 村政懇談会

日 時：平成29年7月5日（水） 午後7時から9時まで

場 所：白方コミュニティセンター 会議室

出席者：村執行部（村長，副村長，教育長，村長公室長，総務部長，村民生活部長，福祉部長，建設農政部長，教育次長） 計9名

事務局（課長，課長補佐，係長，自治推進課職員2名） 計5名

自治会長（白方区，豊岡区，岡区，百塚区，亀下区，原子力機構百塚，豊白区，村松北区） 計8名

自治会連合会（会長，事務員） 計2名

参加者：白方区38名，豊岡区3名，岡区6名，百塚区5名，
亀下区8名，原子力機構百塚区0名，豊白区6名，
村松北区1名，その他46名 計113名

司会進行：村松北区自治会長 小野寺紀夫

総計137名

《次第》

開会

1. 出席者紹介（自治会長並びに村執行部）
2. 白方地区自治会長挨拶
3. 村長挨拶並びに村政の説明
4. 質疑応答
5. 白方地区自治会からの事前質問・要望に関する回答
6. 質疑応答
7. 村政に関する意見交換会（自由質問）

閉会

《記録》

【4. 村長挨拶並びに村政の説明に対する質疑】

白方区住民： 原子力政策について質問する。国の核燃料サイクルについて、注視していくと書いてあるが、技術的にも経済的にも破綻していると思う。それをさらにどうするのか。国はこのまま行こうとしているが、規制庁は違った考えがあるようだ。

3. 11の時，東海第二発電所は危機一髪だった。東海村はJCOの事故を経験し，マクロ検証した人の話では，その後きちんとした対策を取ってれば，福島事故は起こらなかったという結論を出しているが，その中で国の原子力政策を信頼できるか。

村長： 原子力政策について，核燃料サイクルを注視すると言ったのは，一つは発電所の問題がある。発電所は軽水炉のサイクルの中で動いているので，発電所を動かすということは，使用済み核燃料が出る。そして使用済み核燃料をどうするかというと，

白方地区 村政懇談会

今政府の方針では六ヶ所村で再処理するという事になっているが、六ヶ所村は動いてない。そうすると、使用済み核燃料がどんどん溜まることになる。そうすると軽水炉のサイクルも回らないだろう、高速炉自体も、もんじゅを廃止したということで、あれも大きな転機だと思う。国は常陽などを使って核燃料サイクルを続けると言っているが、現状と国の方針が合っていない。国がどのようにしていくのかを見極めたい。当然これは、発電所の問題もあれば機構の問題もある。東海村は発電所と研究施設の両方をもっている自治体で、影響が大きいので問題を注視している。自治体として、まだこうしろと言える状況ではない。

白方区住民：人財の掘り起こしについて。私は白方で防災の仕事をしている。当然、会員は自治会の会員。現状は、要支援者になっている人の半分ぐらいが自治会に入っていない。要支援者の年齢になると、1人になって自治会を離れていってしまう。これでは自治会員がどんどん少なくなっていってしまう。それを見ているのが常会の会員というような状態になっていってしまう。少ない年金の中でお金をとられたくないという考えもあり、自治会に入っているメリットがないと常会に残らない。

村長：今まで自治会加入の誘導策として、ごみ集積所を通じてというのが大きかった。実際、10世帯集めれば集積所をつくれるが、自治会加入者は5世帯でも作れるという優遇措置をした。しかし、それだけでは、なかなかインセンティブにならない。自分たちが得をしたというものがないとダメ。自治会に入っていると、地元の商店街で買い物したときにポイントが付くような何かないとダメだろうと思っている。舟石川・船場地区では、行事に参加するとポイントを付与し、商品券などと交換できるような制度を舟石川地区社協でモデルとしてやっている。こういう仕組みを自治会へ広げていくことで、入った方が得だというのが出てくる。今回プレミアム付き商品券の販売があったが、それほど大々的なものでなくても、商工会でもやっているようなポイントサービスと連動させてやることで、アパートに入っている人なども得だねと思った時に、自治会に入れるようなことを考えていくような時期だと思う。昔ながらのボランティア精神だけで若い人を取り込むのは難しいと思うので、若い人たちの気を引けるようなことを考えていきたい。

白方区住民：原子力発電所について2点質問がある。今、原子力規制委員会と原電で審査しているが、原電の資料の中にトラブルの一例として書かれていることがある。それは、原発の取水口が海藻で詰まって出力を下げたというもの。実際に海藻が詰まったりすれば過酷事故につながるが、原電は今までそのような状況の中でやってきたということ。それについて原子力規制委員会では議論していない。過酷事故につながる事例が簡単に述べられるということは、これからも起きる可能性が大きく、危険な原発だと思う。それから、広域避難訓練についてだが、福島の実例を見れば、東海村か

白方地区 村政懇談会

ら避難した後、元の場所には帰って来られない。どこかに新しい村を作らなくてはならない。避難ではなく逃走する計画だと思う。実際取手市には7日間しか居られない（※1）契約だったと思う。そういうことを考えると、東海村をどこにつくるかまでプランとして示さなければ、実効性のある計画にはならない。そういった状況であるので、実際には無理だとはっきり言ってほしい。

村長：原電と規制庁のやり取りを全部は把握していないので、今の話は後で確認する。いずれにせよ、規制庁の審査については、色々な角度から評価をしているので、住民の方が思うようなことは議論されていることと思う。もし抜けているとすれば、きちんと議論してほしいと思うし、村として発言する機会があれば、村も議論を求める。避難訓練の話だが、福島をイメージすると、あれだけの大きな事故だったので、今でも厳しい現状だ。どこまでそれを防げるかについても、想定外というものがないのだが、新規制基準についてはシビアアクシデントの対策も含めてやっている。炉心熔融に至らない手立てを考えてはいるのだが、福島の事故を見てしまうと本当にできるのかという懸念はある。ただ、今のルール上は、そこまでやる。さらに、最終的に環境中に放出することがあってはまずいのだが、フィルター付きベント工事等も行なって、それでもゼロにはならないので、何らかの放射性物質が外に出る可能性はある。全く福島と同じことが起こるとは言えないが、あの事例だけ見て避難計画は作れませんか、自治体の首長としては万歳するわけにはいかない。今与えられた条件の下で考えていく。最終的には、広域避難計画については、国の原子力防災会議の中で審議してもらおうことになるので、皆様のご意見をパブリックコメント等でも出すこともできるので、そういうものを踏まえて判断したいと思う。現時点で、できるだけ実効性あるものにしたい。

※1・・・協定は1ヶ月となっている。

【6. 質疑応答（白方地区自治会からの事前質問・要望に関する回答）】

質疑応答なし

【7. 村政に関する意見交換会（自由質問）】

白方区住民：コミセンの入り口の道路について質問する。今日も熊本での災害のニュースがあったが、コミセンは避難場所になっている。幹線道路から大型バスが入ることは入るが、そのために何度も切り返しが必要。幹線道路の隅切りや道幅を広げるなど、何か対策が必要。村で対策があれば進捗状況を踏まえて回答がほしい。

村民生活部長：白方コミセンの駐車場の拡幅を今考えているところで、予算措置までいってないが、執行部の内部で統一ができたので、今後予算化に向けていきたいと思っている。実際にどこを駐車場にするのかだが、コミセンの西側のグラウンドゴルフをやっているところを、小学校の方へ移設できないか検討している。グラウンドゴルフ

白方地区 村政懇談会

フのところを駐車場にするということになると、原電線から真っ直ぐ入ってくる道路、コミセンの南側の一本手前の道路を利用できるようになるので、バスの出入りもできるようになる。ただし、まだ最終決定にはなっていない。これから予算措置ということになるので、議会の承認をいただかなくてはならないが、執行部ではそのようなところで進めている。

白方区住民：村の6つの基本方針について、先程村長から説明があった。分かりやすい説明であったが、ただ1点分からない。前村長は東海第二発電所を廃炉と言った。そして、ここ6年間原発は動いてなかった。原発を動かすことについて、那珂市ではアンケートをとり、67%は再可動を賛成してなかった。東海村でも同じぐらいの人がそう思っているのではと思っているが、再可動に固執する人たちは、経済の問題、村の財政、雇用の問題のことを言っている。原電はこの6月に再可動の申請をしたいと言って、現に申請している。全国で11基の同型の発電所があって、10基は廃炉となる中、どうして古い原発をあと20年動かすのか。最近、プルトニウムが漏れて被曝する事故があった。あのニュースで、茨城空港を利用する台湾のチャーター機がキャンセルした。外国でも韓国、ベトナム、台湾などが原発から撤退する方向を決めた。東海村はこれだけの人口を抱えて、福島でも未曾有の経験があったが、どうして廃炉と言えないのか。また、この6年間原電からの税収は少なくなったかもしれないが、それで支障があったか。

村長：経済的な部分で、東海第二が止まっていて、村に財政的な影響があったかという点、それほど大きくはない。原子力関連の収入が多いとイメージしているが、今年東海村は190億円以上の予算だが、そのうち110億円程度税収で賄っている。その税収の一番大きいのが、ひたちなか火力発電所である。1号機と2号機の2基ができているので、その償却資産の割合が大きい。村の財政でなく、東海第二発電所を有する日本原子力発電株式会社は、一民間企業なので、今の法律の中で原子力発電そのものが止められているわけではない。発電所については、新規制基準に基づいて、規制庁のチェックを受けるということになっているので、当然その結果が出るまでは誰も判断できない。会社なので株主もあり、会社がどうするかという経営判断も必要となる。会社の経営判断如何にかかわらず、まず規制庁のチェックを受けなければならない。いくら会社が動かしたいと言っても、規制庁がダメと言ったらそこで終わり。そこは規制庁の判断が最優先。会社に事業活動を止めろというのは、自治体の首長といえども踏み込むのは難しい。要請などはできるかもしれないが、一民間事業者の事業活動を一方的に止めろと言うのは難しい。知っている範囲では、函館市長の裁判という法的手段もあるが、そのような手続きもせず、一方的に指示したりするのは難しい。私は、再可動の判断については、まず規制庁の審査が第一だと考えている。そして、広域避難計画の策定は欠かせない。安全協定の見直しも今やっている。最終的に

白方地区 村政懇談会

は住民の皆様，議会の意見などの判断要素が揃った段階で最終判断する。

亀下区住民：常磐線西側の環境整備についてお願いがある。常磐線西側の内宿2区と亀下区にまたがる問題で、久慈川河川敷の内宿グラウンドへ入る道路が整備されたが、休日は車の往来が多くなっており、道路の線路側は、竹や草が生え、ごみの不法投棄とカラスによる拡散があり、ゴミの山となりつつある。亀下区住民は苦慮している。昨年度も要望して除草をしてもらった。また、水田の耕作者も毎年7月に除草しているが、ごみの不法投棄が無くならない。6月10日の広報誌には、不法投棄をさせない環境づくりと記載されており、心強く思っている。定期的な除草、監視パトロールの強化など、不法投棄撲滅対策を実施して、環境整備をお願いしたい。

村民生活部長：J R 西側、内宿側の田んぼ沿いにある道路については、昨年度もお話があり草刈をやった。草刈はやったが、ごみの不法投棄についてはそのままだということで、カメラ設置などの話も昨年あったが、そこは未だできてないところ。村民生活部だけではなく、ほかの部も併せて現状把握をして、どのようなことができるのか、行政だけでなく皆さんと一緒にできるのか話し合っていきたい。

岡区住民：前谷津公園について質問する。現在は草が伸び放題で、マムシ注意や蜂に注意の看板があり、入っていく人はなかなかいない。前谷津地区保全活動をやってはいるが、入っていく人がいないという状況は、やっている者にとっては悲しい状況。そこで質問するが、いつ頃までに公園として完成する予定か。また、保全するだけなのか、それとも公園にする予定か聞きたい。岡と内宿で年に1回保全活動しているが、継続してやっていくのかも聞きたい。ゆくゆくは役場管理でやってもらえればよいと思っている。希望としては短期間で森林公園にでもしてほしい。

村民生活部長：前谷津地区は、平成12年に当時の区長から公園整備の要望があって、内宿2区と岡区の方たちと行政で協議を進めてきた。平成16年頃から保全活動を始めて来たが、当初は60名の参加があったが、現在は20名に満たない程度での活動が実情。この土地を村で買っているが、村で購入する前に保全配慮地区に指定した。保全配慮地区というのは、地域の皆様、地主の方、皆で一緒に草刈りなどをやって保全するとの考えで進めてきた。皆さんと平成23年から3年程度ワークショップをやって今ある形となった。先日私も行ってきたが、昔の田んぼのところまで下りていくと湿地帯などあって、そこには人が入れないが、その脇の歩道は内宿溜の方に抜けていくようになっていて、そういう現状の形でこの公園を作っていきたいと思いますというのが今の流れです。ご意見として、行政で維持管理をやったらいいのではとのことだが、皆さんと一緒に始めたものをここで終わりにしてしまうと、他の地区、例えば村松地区の天神山でも同じようにしたいと盛り上がっているが、行政も一緒になってやっていくというところで、今行政に渡すという言い方になってしまうと、村松地区もやら

白方地区 村政懇談会

ないほうがいいとの考えにもなるので、皆でできるよう、地区の自治会長を含め、皆様と一緒にできるようにしたいと思うので、もう少し時間をかけて話し合っていきたい。

亀下区住民：事前質問のしめきり坂の村道について、竹が道路を覆っている。3分の1くらいが道路に掛かっている、何本か道路にもはみだしているの、早急にやってもらいたい。カーブのところなので、正面衝突など、子どもたちにとっても危ない。防犯灯でなく街路灯と思うが、街路灯であるならば、竹藪の中になってしまっているの、外に出してもらいたい。そのような場所が2か所あり、竹藪の中が明るい状態なので早急に対策してほしい。

建設農政部長：しめきり坂に竹が出ていることについては、危険と判断すれば村で対処する。民地であれば所有者もいるので、調べて対応を考える。防犯灯についても、2か所あるということで確認する。

白方区住民：人財の掘り起こしについて質問したい。2年前に村長が提案した（仮称）まちづくり協議会に興味を持っていた。色々な団体がみんなで作ったら、多くの人が集まって楽しくできると思って、私は期待していた。私は福祉をやっているが人が集まらない。（仮称）まちづくり協議会の進捗状況を聞きたい。それと、単位自治会で困っていることは、役場OBが自治会活動に出てこないこと。自治会が壊れてしまうので、もう少し役場退職者に考えてもらいたい。

村長：（仮称）まちづくり協議会を提案したが、進まない要因としては、地区自治会は6部会あって事業はスムーズにしている。一方で、地区社協と村民会議の支部活動も毎年同じような事業だが、継続していて正直困ってない。多くの方は今活動ができています。私は5年先10年先を見据えればどうかと思っている。しかし、今できているとなると、新しいことにチャレンジしていくのが難しいようだ。地域で話し合いもなかなかできない。というのも、一年間の行事が決まっていて、地域で行事をこなす、来年の予定も決まっていて継続事業となり、ふり返る時間や新しいことを考える時間もないからである。地域の人に任せただけでは進まないと思う。役場も入って、各地区で各々どうするか。白方学区は大きい学区だが、学区で本当にやらなければならないことは何か。単位自治会でやるべきことは何か。防犯パトロールなどは、単位自治会でやっているが、地区自治会全体で見えるようにすると違うと思うが、そのようなことを提案しながら意見をすり合わせていくことをやっていきたい。地域で考えてほしいと役場は一旦投げたが、一緒に考えていきたい。諦めてはいないが、焦ってやると役場に言われてやったとなるので、合意形成を図っていきたい。それと、OBの話だが、今は年金支給開始時期が遅くなっていて、定年を迎えても働かなければならない状況となっており、地域活動に参加できる時期がどんどん遅れてはいる。あと

白方地区 村政懇談会

は個人の意識の問題である。私からは、退職時に地域で期待されているとお伝えしている。強制はできないが地域の思いを受けてはいると思う。皆様の仲間に入れるように、上手く言ってもらいたい。また、現職の職員へは単なる労働者、サラリーマンではないと言っている。若い職員の意識も変わっているので、皆様にも支えてもらいたい。

豊白区住民：はなみずき通りに隣接した児童公園について。以前置かれていた鉄棒などが撤去され、野球、サッカーのボール遊び禁止の注意書きがあり、子どもたちも来なくなった。時々除草作業はしているが雑草が生い茂り、犬のフンが放置されている。児童公園に対する村の考えを聞きたい。また、去年の村政懇談会で空き家対策の進捗状況、空き家対策について質問があったが、その後空き家対策協議会を設置して検討していくと返事があったが、その後の対策の進捗状況について聞きたい。それと、先程の話で、日立市では人財バンクの本が時刻表ぐらいの冊子になって活用されており参考になると思う。

建設農政部長：これまで公園に関しては、遊具やスペースの関係で、安全を考えてボール遊びを禁止にしているが、遊具を撤去しスペースもあるような場合、隣接する住宅等の状況にもよるが、地域ごとに考えて見直すことができると思う。また、空き家対策進捗状況については、「広報とうかい」に対策計画を作ったと掲載する予定。空き家は原則その所有者の管理だが、まずは平成28年度実態調査を実施した。さらに各地区で想定される空き家を調査して、衛生面、防犯上危険なものや空き家バンクに登録するという活用できるものなどが考えられるが、まずは適正な管理をお願いする通知を送っている。今後も、皆様から情報提供があれば、調査をし、危険であるようならば、村の方から警告や勧告、最終的には取り壊しなど順を追って管理を促進していく。まずは、所有者の管理を促すが、行政でも執行することができるようになっているので状況を見ながら進めていく。

白方区住民：コミセン内の居場所の開設をという提案があった件について。社会福祉協議会でやっている「出会い」という施設は、365日のうち364日開催している。これは介護保険をベースにしてやっている。社協の話だと、誰もが利用してもよいという形で、障がい者施設を利用している方なども利用させていただいている。事前質問では、「利用対象が高齢者中心として低料金で飲食等が可能」とあるが、この辺も考えていけばできるのでは。先程、村長も仰っているが、役場も一緒に考えていくと部長も仰っているので、形にしてほしい。障がい者施設に通っている利用者も高齢者と一緒に利用できるのではないかと思う。顔見知りになるということが、原子力の事故などがあつたときに、避難をどうしようかというときに、親御さんが連れて出られない方たちも、親しくなった高齢者から助言をもらったりできると思う。ぜひ立ち上げ

白方地区 村政懇談会

てほしい。「今後も高齢者が外出しやすい環境を皆様と一緒につくっていききたい」と役場は仰っているので、できるようにしてほしい。

亀下区住民：亀下区から手押し信号新設の要望が出ていると思う。場所は白方小学校から北の方へ向かって、森発條から豊岡に抜けるところ。亀下と豊岡の児童生徒が通学している。昨年も東海村で一番危険な交差点という話をした。過去にも死亡事故を含めて大きな事故も起きている。交差点を横断するところに、死亡事故多発地点と書いてあることから危険と分かる。現在の進捗状況を伺いたい。

建設農政部長：要望をいただいて教育委員会、学校関係者、道路担当や警察と現場立会を行って現状確認、協議を行なった。その中では、坂の途中ということで、信号設置に適さないと警察が見解を出している。何かできないかということで、路面表示とラバーポール設置をして注意喚起を促している。危険箇所ということで、これからも皆様と協議をする。

白方区住民：避難訓練について。村松と真崎に分かれ、東海パーキングとひたちなかの方へ分かれて避難するとのことで、100人程度を集めて高速道路を回らせても、セレモニーで終わるのでは。分散した人を集めて、「こうしよう」「ああしよう」ということがなければ、どういう検証になるのかと感じる。過去に原研の人たちを対象にして、笠松に避難する訓練を実施し、色々問題も出た。ヨウ素剤検査をやるのであれば、震災の前に数回避難訓練をやっており、問題も出ていると思うので、その辺を盛り込んでもらいたい。

村長：今回、真崎と村松で合わせて200人程度の住民と、その他関係機関100人程度の規模で実施する。地域の人がメインでというのが前提となる。まだまだ設定としては甘いかもしれない。事業所から通報を受けて、どのように情報を伝達するか。村の本部設営や情報伝達などを含めて、住民の方にもコミセンに集まってバスに乗って、普段は大型は通れないが、ネクスコにも非常時を想定してもらい、スマートインターを利用し一連の流れを検証する。今後訓練の中身を充実して次の機会にやっていく。

真崎区住民：基本方針の「まち・ひと・しごと創生」、また最重点施策の「子育てに優しいまち」という非常にいいテーマをやっている。今の若い人が大人になったとき、どういう世の中になっているかということ、人工知能のAIに仕事を取られてしまうようになってきていると心配している。村長として、東海村で教育を受けた人間が、一生安泰に暮らせるというような、AIに勝てる教育をぜひやっていただきたい。三つ子の魂百までというが、小さい時に覚えたことは一生進展していくと思うので、ぜひAIに勝てるような人間はどうあるべきなのかを考えて、東海村で育った子供たちが優雅

白方地区 村政懇談会

に暮らせるようにしてほしい。

村長：時代は変わりICTも発達しAIになっていく、IOTでビックデータになって自分も知らない間に動いていく。人は最終的に人と人のコミュニケーションが大切だと思う。自然豊かな東海村を肌で感じ、人で感じ、東海村で教育を受けた子どもたちは身にしみついていると思う。時代が様変わりしても、東海村に対する思いが強ければ、愛着心があれば、この村で活躍してもらえらると思っている。その思いを伝えることは村長としてやっていきたい。先日小中学校を訪問してきた。健やかにいい子どもたちに育っているの、この子たちが大きくなって色々な影響を受けて、迷うこともあるだろうが、ふるさと東海村が大好きだと言ってもらえるようにやっていく。

教育長：歴史と未来の交流館については説明したが、これからは不確実な将来を見通せない世の中になっていく。だからこそ、自分の目で現場に行き確かめて、触れたり、考えたり、色々な大人と係わり、そういった環境で育った子どもたちは打たれ強く、しなやかな力を備え、折れない心が育っていく。そういう子どもたちを育てていきたい。もう一つは、自然科学に力を入れ、フィールドワークをしながら自分で価値判断をして、自分で解決できる子に育てていきたい。そういう交流館にしていきたい。

白方区住民：1点目は人財の掘り起こしについて。官民連携とか住民との協働で物事を成すとなったときに、基本的に無料奉仕で知識や技術を持った人が役場と車の両輪のようにはたらくとか、あるいは村民がボランティアで、無償ではたらくという傾向がみられるが、ボランティアは完全な無償奉仕である必要はない。知識や技術に対して、世の中の相場よりも低い額であるけれど、労働の対価は払われるとか、お金は十分に出不ないが役場職員や団体の職員と一緒にやるとか、人財として掘り起こされた人たちが一切見返りなしに自己満足で頑張れというイメージになってしまうと、今の会社勤めとか仕事で現役世代の人は、将来魅力を感じないという土壌を作ってしまうと思うので検討してほしい。2点目は、原研道路と並行して走る村松幼稚園の裏通り、そしてもう一本北側の百塚集会所の前の通りについて。時速30キロ制限だが、速度が守られてない。特に幼稚園のところは、園児が通るところで、ぎりぎりまでスピードを落とさず、急ブレーキで減速するような者が見受けられるので、子どもたちの安全のためにも目を配ってほしい。

村長：人財の掘り起こしは、活動する住民を増やしたいだけでなく、今活動する人に光を当てたい。活動の内容を皆さんに認めてほしいし、役場も知らなかった。役場も地域にお願いしすぎていた。ただ、役場もマンパワー的に全ての職員を地域に張りつかせるわけにはいかないの、一定程度は地域でカバーしてもらわないとならないが、そこは一緒になってやる。尚且つ一人当たりの負担は減らしたい。どうしても特定の人が、色々な活動に何回も顔を出して、その人に頼り切っているという現状がある。多くの人で少しずつ手を貸すことで同じような活動が続けられるのであれば続け

白方地区 村政懇談会

て、思い切って活動を止めることも判断として必要。やりすぎているところはある。そこは自助努力でやっていってもらおう。地域としてやるところは分けて、コミセンの役割を再構築したい。コミセンは公の施設で、特定の方の施設ではない。白方コミセンは、白方地区の方のためだけのための施設とはいえず、他の地区の方も借りられる。今後コミセンをどういう方向へ持っていくか、地域拠点にするなら位置付けを変えないといけない。それがいいのかどうかも含めて役場で考えていく。活動する方、コミセンのあり方、村の係わり方を再構築したい。生活道路については、運転している人に警鐘を鳴らすには、ハンプのような物理的なものがあればよいが、普通に通行している人には邪魔となり危険にもなるので、物理的なものでないとすると、カラー舗装とかで視覚的に訴えるなどしかないと思う。警察の協議を伴うものは了解をもらわないといけないが、村単独でできるものは子どもたちの安全を考えて検討していく。

白方区住民：今まで5年間防災活動に携わっている。防災の支援金の話しをしたい。防災の支援金が年間9万6千円だが、全然進展してない。配分が変わってない。

村民生活部長：防災の補助は9万6千円だが、一方で単位自治会と地区自治会へも補助しており、単位自治会は交付金を一括して、柔軟に使用できるようにしたので活用してほしい。

白方区住民：全ての自治会の防災の補助が一律というのはおかしい。世帯数の少ない自治会でも一律9万6千円の配分というのはおかしい。

村民生活部長：単位自治会の交付金も違うように、人も多い少ないもあるので、来年度の予算では見直しをしたい。

白方区住民：今まで4年間要望してきた。ボランティアでやっていて、「ボランティアで1人100円寄付してもらったらいいのでは。」と言った職員がいた。平気で言うような人がいる。

村長：「お金を集めればいだろう。」と言った職員がいたとすれば謝罪する。補助金を作る時に、自主防災組織の中で資機材を買ったりするので、人口割でなく一律にやったのだと思う。その考えで制度を作ったが、その後制度見直しができなかったと思う。現状を把握して、他の地区からも話があれば共通課題となっているだろうから、意見の吸い上げが足らなかったと反省し、来年に向けてやっていくことを約束する。

白方区住民：原発のことで話をしたい。村長は、原子力のことは一事業所のことなのでとやかくいえないとのことだが、福島事故のことから考えたら、そんなひどい事故にはならないようにも聞こえる。5キロ圏内は事故が起きれば、故郷もなくなる。ずっと東海村に住んでいたいと思っている。その中で、避難計画はあまりにもお粗末すぎる。5キロ圏内全世帯を避難の対象としたものが検証されるものでなければならぬ。私は、一旦避難したら雑魚寝は嫌なので、ベッドを持っていってもいいかと聞き

白方地区 村政懇談会

たいぐらい。規制庁の審査について状況を見ていくということだが、どういうことか
いまいちはっきりしない。規制庁の第二原発の審査の状況を見にいったりもして、安
全審査の申請の資料を見たが、防潮堤について構造が変わっている。土地の液状化の
対策もしないということも言っている。そういうことを事業所が勝手に変えてしまう。
どういう申請なのか住民に知らされてない。避難計画もお粗末な計画で進んでいる。
このままで良いとは思わない。むしろ原発は止めてほしい。

村長：福島事故に関して言ったのは、あの事故を踏まえて新規制基準ができた。そ
の基準に基づいた安全対策が講じられた場合、どういう状況なのか予想ができない。
少なくともあの事故を踏まえてできた基準なので、安全対策は向上していると思う。
皆さんの中には、同じことが起きるといふ思いが強い方もいるので、新規制基準の審
査のなかで納得してもらえるかは、今後の課題だと思う。今、事業所が規制庁のピア
リングを受けながら審査を受けているが、結果的には審査の中で、事業者側が評価し
た安全対策に関して、規制庁は色々意見を言うやりとりなので、最初に出した安全対
策を押し通すのではなく、やり取りの中で、他の事例も参考にしながら、より安全性
を高める議論をされているということで、この議論は結果として変わるのはいやむを得
ない。最終的には補正の申請ということで、申請書を出しなおすということは、事業
者の見立てが甘かったということで、規制庁がきちんとチェックをしているというこ
とで、よい議論をしていると思う。それだけ規制庁がきちんと見ているということ。
それでも見逃しているのではという意見もあるが、それも含めて審査がどうなるのか、
最終的に安全対策がどうなるのかが結果としてでてくるので、それについて事業者が
どう対応するのか、それが次の段階だと思っている。注視した上で、最終的に村長と
して判断していきたい。

豊岡区住民：なぎさの森公園の周辺の放射線濃度が高いということで除染した土砂が
フレコンバックで野積みになっている。村では定期的に放射線の測定とか検査をして
いるのか。撤去とか処分の手配はあるのか。

村民生活部長：測定は定期的に行っている。当時、遮水シートを敷いてフレコンバッ
クを置いて、上から遮水シートで水が掛からないようにしたが、6年経過して遮水シ
ートが一部傷み、穴が開いた状況を確認しているので、その辺の対応をしていかなけ
ればならない。他の地区でもフレコンバックを移動してほしいという話は出ていて、
東海村外に出すというのが今のルールだと難しい。現地で集めたものを現地に置いて
おくが、村内でどこかに移動するというのも、皆さんの理解をいただけないとなか
なか作業もできず、環境省でも自治体でやっているところがないので、村も調整を始
めているところだが、豊岡地区のここは村内で一番大量にあり、動かすのも大変な作
業。繰り返しになるが、遮水シートに穴が開いているのはいいことではないので、そ
の辺の対応については考えていきたい。

白方地区 村政懇談会

白方区住民：最後に要望だけ言いたい。地域ボランティア活動についてだが、要支援者の安心サポーターを確保するのが大変。問題は、常会に入っていない方が年々増えている、常会に入っている安心サポーターが、常会入っていない人を支えており、何故、常会入っていない人を支えなければいけないのかという話がある。老老介護と同じで、やる人がいない。常会の会員も高齢で辞めていってしまう人がいる。また、村外から一人で転居してきて民生委員が見てくれると逆手に取られた事例がある。これは、東海村は潤沢予算だから、高齢になれば面倒見てもらえると思っている。高齢の要支援者だけでなく、母子家庭なども増えているはず。東海村は姥捨て山にされるので、危機感を持たなければならない。

以上